

第2回亀岡市学校規模適正化検討会議 議事摘録

■日時

平成26年10月21日（火）14：00～16：00

■会場

亀岡市役所2階 202・203 会議室

■議事

1. 開会
2. 協議・検討事項
 - (1) 学校施設の現状について
 - (2) アンケートの実施について
 - (3) 意見交換
3. その他
4. 閉会

■意見交換発言内容

（事務局説明「学校施設の現状について」）

会 長：事務局説明に対して質問等はないか。

委 員：学校維持管理経費一覧で、「その他経費」がすべて5,889千円となっている。学校によって浄化槽の大きさが違ったりするが、経費の差がここには表れてこないのか。

事務局：「その他経費」については契約が一本化されていて学校別になっていないので、各学校への割り振りがされている経費をあげている。

委 員：「その他経費」が占める割合が高いが、厳密な数字にはならないということですね。

会 長：契約の都合でこういう形になっているという理解。

この会議は委員の数が多いので、みなさんの意見を聞くために議長から指名をさせて頂くことも。事務局説明について委員からご意見を頂きたい。

委 員：この数字を初めてみたところで、これまでこういう数字をみることはなかったので、現状がこういう状態であると受け止めている状況。

委 員：安詳小学校は、数字をみると運動場が狭いと思った。子どもを通わせた実感ではそんなに狭いとは感じなかったが、子ども、保護者から狭いという声が実際に届いているのか。

事務局：教育委員会には届いてはいない。

委 員：面積的なことは把握していないので分かりかねるが、多くの経費がいることは数字をみて初めて分かること。他の保護者はたぶん分かっていないだろう。大変な数字が並んでいるとびっくりしている。

会 長：維持管理の大変さが出ている。学校現場からみてどうか。

委 員：きびしい財政の中での数字であり、現場からは特に言うことはない。

会 長：教育上で不自由があるとかは無いのか。

委 員：備品とか施設の消耗が激しい学校もあると思うが、予算措置が厳しい状況なので仕方ないかなと思いつつ、教育委員会に協力をしてもらいながら進めている。

委 員：厳しい中での予算でなんとも言えないが、何か取り組みをしようとするれば予算が必要で、厳しいという感がある。

- 委員：事務費も小学校と中学校で分かれているが、これも人数によって大きく違ってくると思う。一括購入されたものを挙げているようだが、学校規模によってもっと違うものになるのでは。実際の金額で出してみると全然違うものになるのではないか。光熱費は、大変寒い思いをせざるを得ないような、冬の後半になると、灯油がないから今日は3時半までとか打ち切りとかがよくあった。光熱費も十分ではないと思うので、手当ができないか。あと、修繕費が非常に高い。これまでに老朽化しているところがあって治したのかどうか。小学校で修繕費が多くかかっているところが目につくが、何かあったのか。
- 事務局：修繕費は緊急性、安全性に基づき必要なものを決め対応しているので、25年度にどこをとすることは回答が難しい。教材等教育費については、学校の大小にかかわらず変わりはない。この資料は学校施設の経費についてのみ出したものであり、修繕についても子どもの安全安心に必要なものに取り組んだ結果なので、ここが多いとか少ないとかで決めるものではない。
- 会長：子どもの教育については平等性が担保されているということ。他に無ければ事務局の報告についてはこれで終わりにする。

（事務局説明「アンケートの実施について」）

- 会長：調査実施要綱について質問は。
- 委員：学校関係者調査の対象者は合計260人となっているが、各校10人だと学校の規模によっては先生全員になったりする。この人数だと全教員約550人の半分なので、各学校50%程度を対象としてはどうか。
- 会長：教員数の少ない学校もあるので按分すればという提案だが、事務局は。
- 事務局：按分する方向で再検討したい。
- 会長：各委員異論は無いですね。（了承）
- 委員：これから学校に上がる就学予定の保護者の立場で聞くことはできないか。これから10年、20年考えるときに、現在の保護者の意向を優先すべきではないか。
- 会長：幼稚園、保育園を対象とすることだが、一般市民調査にも入っている。
- 委員：本調査では小学年低学年が入っているし、その下にもお子さんがいる場合もある。必ずしもこの方法で意見がとれないということはないのではないか。
- 会長：兄弟姉妹もあるし一般市民も入っているので、そこからも吸い上げられる。
- 委員：幼稚園保護者を対象に加えるとすると、調査票は別途作成するのか。
- 会長：あまり変わらないと思うが修正は必要だろう。スケジュールもあるので事務局いかがですか。
- 事務局：未就学児の保護者から聞くのも大事だが、サンプルの抽出が難しく、市民や小学校保護者と重複する可能性もある。事務局提案の方法でカバーできるほか、スケジュール的に厳しい。
- 委員：市民調査のQ3に未就学児についても聞いているので、これを集計してもらえば良いと思うが、未就学児のことに留意して進めていただきたい。
- 委員：あの学校に行くとか、まちの声というか噂が広がっている。保育園・幼稚園の人の意見をあえて聞く必要がない。資料1は必ず同封することをお願いしたい。アンケートだけ

では学校の現状が分からずこれがないと答えようがない。

会 長：この検討会に先立って教育長に規定の路線があるのかと確認したが、ないとのことであった。問題意識があるので開催しているが、統廃合をする、しない、どういう方法があるのかといったことの意見が聞きたいと仰っていた。市民には、これからどうするのかということを検討するのだとお伝え頂きたい。

事務局：資料の同封については検討したいと思う。ただし、このまま載せるかどうか、数字の出し方については工夫したい。

会 長：差し障りのない形で出すことを検討して頂ければ良い。

委 員：市民調査に資料をつけてほしいとのことだが、クラス数が多い少ないという質問をしているわけではなく、データと質問とは関係が無い。事務局に任せてはどうか。

委 員：実際にアンケートをやってみたが、自分の子どもの小学校のクラス数が分からないと答えようがない。

委 員：理想の数を聞いているのであって、現実の良し悪しを聞いているのではない。市民の純粋な意見を聞く方が良いので、資料をつけると却って混乱するかもしれない。

委 員：何十年先のことを考えるには幼稚園児の親の意見を聞くことも大切。時間がないとはいえ今少し時間を伸ばしても対応したほうが良いと思う。なお色々意見はあるが肯定的に受け止めて、事務局が最終判断するというところで良いのでは。

委 員：大規模校にも問題があるが、大規模校を割るという議論にはならなくて、小規模校をどうするかというのがこの会議の趣旨と違うのか。小規模校の意見を厚く集めないと、大規模校には小規模校の事は理解できないのでは。

委 員：一般市民調査の前文を読んで答えることになるが、文中に「小規模化と大規模化」とあり、自分の学校が感覚的には分かるが何人なのか数字ではわかっていない。参考の「適正規模」が正しい学校のサイズと理解してしまうので、資料1の「参考」から下を省いて現状だけをつけてはどうか。

会 長：適正規模は文科省の考え方であり、アンケートは回答者の意見を聞くもの。

委 員：基礎が分かっていないと答えにくい。第1回会議の時の年数と児童数の資料を持ち帰ったら、家族や従業員も、どの時代にどの学校に何人いるのかに興味を示した。これは良い資料だと思う。

委 員：自分の卒業した学校は6学級だったが、代々続くところは継続する。子どもが通っていた学校は、7年前で500-600人ほどだったのが200人増えている。母校や地域の学校には関心があるが、他校については全く知らない人が多い。現在の保護者は、どちらかといえば、どこの幼稚園、保育園、小学校が良いか等についての関心が高い。新興住宅地では、地域のつながりが薄いので、この文章だけでは取っ付きにくいと感じる。

委 員：保護者の1人だが、アンケートを書く場合に、巢立った学校の規模や思いが影響してくるのではないかと。親が書くとき子どもの学校ではなく自分の学校を思い描く場合も多いのではないかと。提案だが、親が育ってきた学校の規模を先に聞いておくと、小規模校で育った親はこのように考えているとかが分かり、調査に深みが出てくるのではないかと。

会 長：実施要綱については、出た意見を考慮してもらい事務局で検討してもらおうということではよろしいか？（了承）

では次に内容について。

委員：子どものクラスの児童数がちょうど良いとか聞いているが、現状が何人かを聞いた上で理想を聞くほうが親切ではないのか。

委員：市民調査の内容をみる限りでは、Q 9 の亀岡市の小学校配置はわかりにくい。それ以外のQについては、自分が育った時のイメージと現在とは異なるので、増えたり減ったりしていることがわかる資料があれば参考になると思う。

委員：市民調査のQ 7。地域における小学校の果たす役割について、現状と少し違う。小学校は2 番目の避難場所であり自治会館が第一。小学校が一番と思われる可能性がある。食料備蓄や防災器具は小学校ではなく自治会館においている。空き教室の利用はあまり実施されていないと思う。誤解が生じるおそれがある。

委員：同じ設問だが、分からない人が多いと思う。コミュニティに役割を果たしているのかどうかも知らない人は書きようがないので、「わからない」という選択肢を加えては。

会長：「大規模校・小規模校の長所・短所」という設問だが、良い悪いではなく強み・弱み、SWOT 分析の手法を使った方が良い。長野県の例だが、子どもが山道をキロ通学していた。これは大変だから弱みなのだが足が強くなるので強みともいえる。そういう表現にしてもらった方が良いのでは。

委員：Q 9 亀岡市の学校配置に関連する設問があり、自分の子どもの校区は分かるが他校はさっぱり分からない。資料に地図で学校の位置と校区が入っているのがあれば良いのだが、ないと答えにくい。

委員：私は大規模校の地元に住んでいるが、自身が育ったのは田舎。子どもは大規模校に通学したが自分の頭の中は自分の育った学校を基準にして書くのではないかと思った。

委員：小学校と中学校の校区図があれば。

委員：少し具体的になったかと思う。

会長：これまでの意見を事務局で検討してください。11 月の配布までに再度集まる時間はないので、私と事務局で相談し最終案を確認して、各委員にお知らせできるか。

事務局：最終案をお送りすることは可能。

会長：修正意見があればすぐに電話等で出してもらおうということで集約することにする。（了承）

（意見交換）

会長：委員から市民の動きの報告などあったが、今後この会議を進めていく上のことなど、何か無いか。

委員：この会議の目的は小規模校をどうするかがメインではないか。つつじヶ丘小学校は、開校当時は寄せ集めて作って一時は児童数も増えプレハブということもあった。現状では減って、また分かれてしまった。本調査と並行して、これをどうするのか現状をどう考えているのかアンケートをやってはどうか。自治会活動は基本的に学校単位でやっているが、亀岡小学校、つつじヶ丘小学校は校区を割っている。そういった部分をどうするか、一般市民がどう考えているか別の視点で調査してはどうか。亀岡小学校が分かれた際には相当摩擦があり、それを一方的に戻すのが良いかはわからないが、当初は行政の

エゴで分けられたという認識だった。

事務局：本調査の目的のひとつに大規模校の適正化があり、安詳小学校、つつじヶ丘小学校等の校区の見直しもひとつの考え方としてあるので、委員会の中でご意見を頂ければ良いと思う。

会長：小学校区と自治会とは密接に結びついているので、大変難しい問題もあると思う。

委員：篠町に住んでいて、安詳小学校と詳徳小学校の境界に近い。安詳小学校は大規模校で詳徳小学校はその4分の1程度か。長年住んでいるが安詳小学校の宅地開発は進んでいて、同じ篠町にいて片や大きく、片や小さい。中学校も国道を挟んで規模がかわり、子供会もややこしくなっている。計画が決められた時から宅地開発の状況も変わってきていてアンバランスになっているので、再考して頂ければ。

委員：南つつじヶ丘小学校の近くを通り、そこからかなり歩いてつつじヶ丘小学校に通っているという現実もある。校区替えの議論もあがってくるかと思うが、住民からも何でわざわざ他校の前を歩いて通学しているのかという話が未だに出てくるので、その辺も考えてほしい。

会長：規模適正化の検討なので、校区の問題も重要な柱。

委員：小学校と中学校の地図をつけてほしい。それがあれば今の問題も考えられる。

委員：適正化とは直接関係ないが、亀岡市内でいじめや登校拒否等が小規模校・大規模校で何人あるか、パーセント程度でよいので分らないか。

会長：不登校や心を病んでいるなどいろいろな子どもがいるが、それを我々がどう暖かく包んでいくのかということが課題で、そこは教育委員会にある程度任せていくこと。

委員：私の卒業学校は小規模校だが、それがあたり前で、良かったとか悪かったとかはない。地域とのつながりが非常に強く、見守り活動等を通じて学校への思いを持って学校を見ている。小規模校なりの良さがあるので、小規模だから合併するとかすれば地域とのつながりが薄れると思う。

会長：小規模校にも強み・弱みがあるので、そういったことがアンケートから出てくるのかと感じた。

委員：PTAをやっていて、各地域からブロック長などを出してもらっているが、差が激しい。大規模校だと児童数も多くて出てくる委員もやりやすいが、小規模校になると皆さんが様々な委員をやっていて、なり手が無い。こういう活動をする上であまりに差が激しいと色々な問題が生じてきているという現実がある。

委員：学校のあり方を考えていくときに、亀岡市の都市計画が大きく関係している。調整区域では住宅開発ができなくて子どもが減ってくる。都市部の良い土地では開発がしやすい仕組みになっている。大きな方向性がある上での学校や地域の自治会の話ができるのではないか。その情報が少ないので情報を出してもらえれば検討材料にもなる。

会長：行政、保護者、自治会活動等多様な視点があるので、それをこの会議で出してぶつけ合えば良いのではないか。

委員：小規模校に近い学校を卒業したので、小規模校にも役割があり児童が少なくなったからといって統合すべきではないと思っている。私は今、活動拠点として旧一の宮幼稚園を借りて活動している。園庭に石碑があり、元は千歳小だったのが一の宮幼稚園となった

ことがわかる。5年前に開始したときは千代川町の人利用が多く、地元の人利用がなかった。その後NPOの活動を地元の自治会で流してもらったら利用が増え、先月、千歳町の利用が千代川町を抜いた。地域に認めてもらったとうれしい。子どもの声が聞こえる利用をという声で始めたが、時代が流れて建物の活用方法は変わっても、子どもが走り母親が集うという利用もある。

委員：来年度から南丹市で統廃合が行われる。亀岡にもそれが来るということがまちの声としてあがっていることは留めておいてほしい。

会長：以上で、本日の会議を閉じさせて頂く。